

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語I (2単位)	3. 科目番号	GECM1315
2. 授業担当教員	橋本 琢		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	韓国の文化と言語に興味、関心があり、秋期に「韓国の文化と言語II」を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	2002年ワールドカップ日韓共催以後、K-POPを始め、韓国ドラマやハングルに対する関心が急速に高まっている。こうしたことを踏まえて、本学でも韓国の大学と協定を結び、また、韓国短期研修も実施している。そのため、本講義ではハングルや韓国に関心がある初心者の学生を対象に基本的なハングルの学びながら、韓国の文化や社会についても学習することを目的とする。講義内容は難しい文法よりは、分かりやすい日常会話、すなわち実用会話を中心に学習する。また、韓国の文化や社会などについても学習し、韓国社会の理解を高めることにする。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国社会や文化に対して基本的なことを理解する。</li> <li>2. ハングルの文字を覚え、韓国語の読み、書きができる。</li> <li>3. 簡単な日常会話ができる。</li> <li>4. 韓国語で簡単な自己紹介ができる。</li> <li>5. 韓国旅行のとき必要な基本的な言葉を覚える。</li> </ol>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1: ハングルが正確に発音できて、読めるようになる。          課題2: ハングルで文が書けるようになる。          課題3: ハングルで簡単な自己紹介ができるようになる。          課題4: 夏休みには指定された日韓の比較文化に関する書籍を読み、「日韓比較文化」についてのレポートを作成する。(猶、文献については下記【参考書】より教員が指定する)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】          李志暎『新装版 できる韓国語 初級I』アスク出版、2010。          【参考書】          石田美智代監修『『あいうえお』から覚えるいちばんやさしいハングル練習ノート入門編』、永岡書店2019。          鄭銀淑『馬を食べる日本人 犬を食べる韓国人』ふたばらいふ新書、2002。          金栄勳『韓国人の作法』集英社新書、2010。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハングルの文字を読み、書きができるのか</li> <li>2. 簡単な会話ができるのか</li> <li>3. 韓国の文化について理解されているのか</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミニテスト及び授業への参加度: 40%</li> <li>2. 課題レポート及び予習ノート: 30%</li> <li>3. 小テスト: 30%</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>言葉が通じた時の喜びを実感しよう。          本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。発音などの練習のときは大きな声を出すこと。</li> <li>2) 韓国語の学習と並行して韓国文化についての紹介、解説を各講義時に適宜してゆく。</li> <li>3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をする。</li> <li>4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしない(正当な理由以外は減点の対象になる)。</li> <li>5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守する。</li> <li>6) 韓国文化に関するグループ討議や会話のロールプレイには、メンバー全員が積極的に参加し、また他人の発表はきちんと傾聴する。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要についてシラバスを中心に説明する	事前学習	シラバスの確認および学習用ノートを準備して授業に臨む。
		事後学習	韓国語の由来及び構成を確認する。
第2回	基本母音と子音(平音)の学習	事前学習	pp.8~9を読み、基本母音、子音(平音)が読めるようになり、単語を覚える。
		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第3回	子音(平音)の学習①	事前学習	pp.10~11を読み、子音(平音)が読めるようになり、単語を覚える。
		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第4回	子音(平音)の学習②	事前学習	pp.12~13を読み、子音(平音)が読めるようになり、単語を覚える。

		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第5回	子音(平音、激音)の学習	事前学習	pp.14～15を読み、子音(平音、激音)が読めるようになり、単語を覚える。
		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第6回	子音(激音、濃音)の学習	事前学習	pp.16～17を読み、子音(激音、濃音)が読めるようになり、単語を覚える。
		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第7回	子音(濃音)の学習	事前学習	pp.18～19を読み、子音(濃音)が読めるようになり、単語を覚える。
		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第8回	パッチムの学習①	事前学習	pp.20～21を読み、パッチムのある単語が読めるようになり、単語を覚える。
		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第9回	パッチムの学習②	事前学習	pp.22～24を読み、パッチムのある単語が読めるようになり、単語を覚える。
		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第10回	合成母音の学習	事前学習	pp.25～28を読み、パッチムのある単語が読めるようになり、単語を覚える。
		事後学習	授業で学習した内容を発音しながら、学習用ノートに書いて覚える。
第11回	韓国の概要について知る	事前学習	外務省HPを参照しながら韓国について及び、日韓関係について学習用ノートにまとめる。
		事後学習	授業の際になされた自分以外の受講者の発言をまとめ、韓国についての理解を深める。
第12回	第一課、私は日本人です。	事前学習	第一課(pp.40～43)の例文を音読し、「基本文型練習」に解答を記入しておく。
		事後学習	授業で学習した例文を音読し、「書いてみましょう」と「話してみましょう」を復習する。
第13回	第二課、日本人ではありません。	事前学習	第二課(pp.44～49)の例文を音読し、「基本文型練習」に解答を記入しておく。
		事後学習	授業で学習した例文を音読し、「応用練習」と「話してきましょう」「聞いてみましょう」「書いてみましょう」を復習する。
第14回	第一課、第二課の復習	事前学習	第一課から第二課(pp.40～49)の例文を音読し、語彙及び文型の確認をする。
		事後学習	第一課から第二課(pp.40～49)の例文を音読し、語彙及び文型をノートに書いて覚える
第15回	自己紹介と会話のロールプレイ	事前学習	第一課～三課の内容を参考に、ハングルで自己紹介をノートに書いて授業に臨む。
		事後学習	自己紹介文と、授業時に作成した会話のロールプレイを覚える。